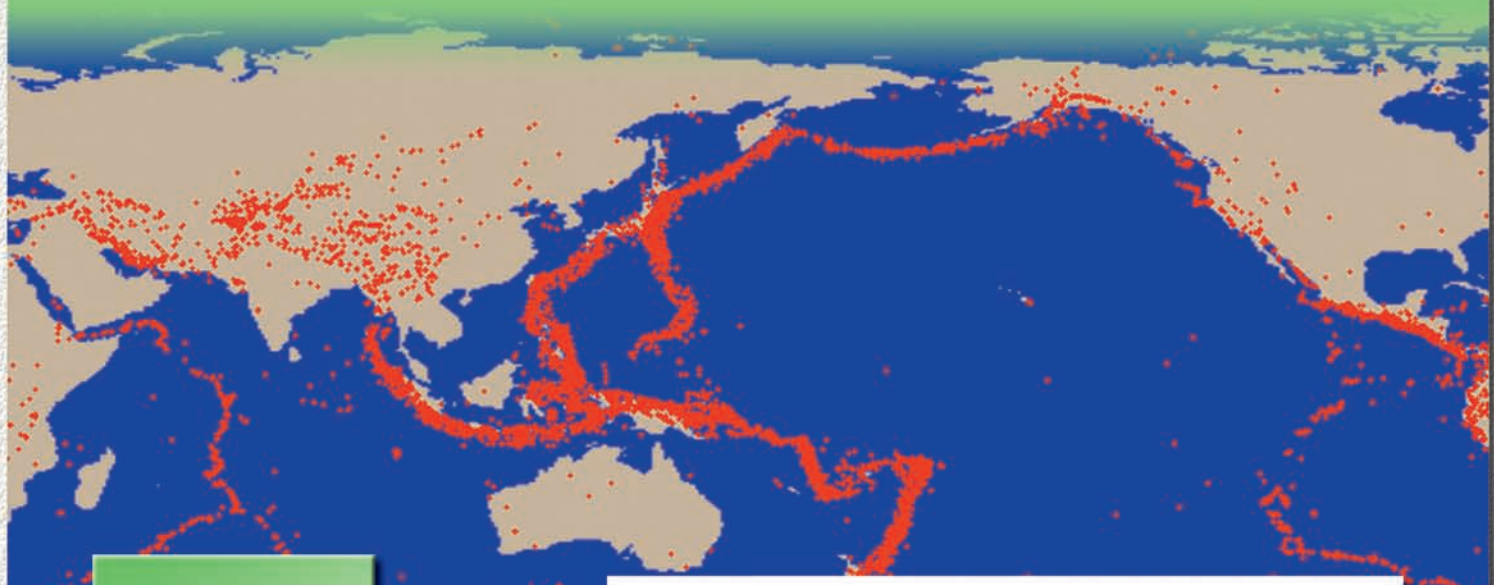


私たちの防災・減災技術で あなたとあなたの地域を支援します



災害時

平常時



防災・減災への活動「5W1H」

When 平常時から、
大規模災害発生時のために

Who 技術士会所属の技術専門家が

Where 危険が予想される地域、
被災された地域に

What 地域の防災・減災の助言や
被災状況調査を行う

Why 危険箇所の判定、二次災害の防止、
技術的支援のために

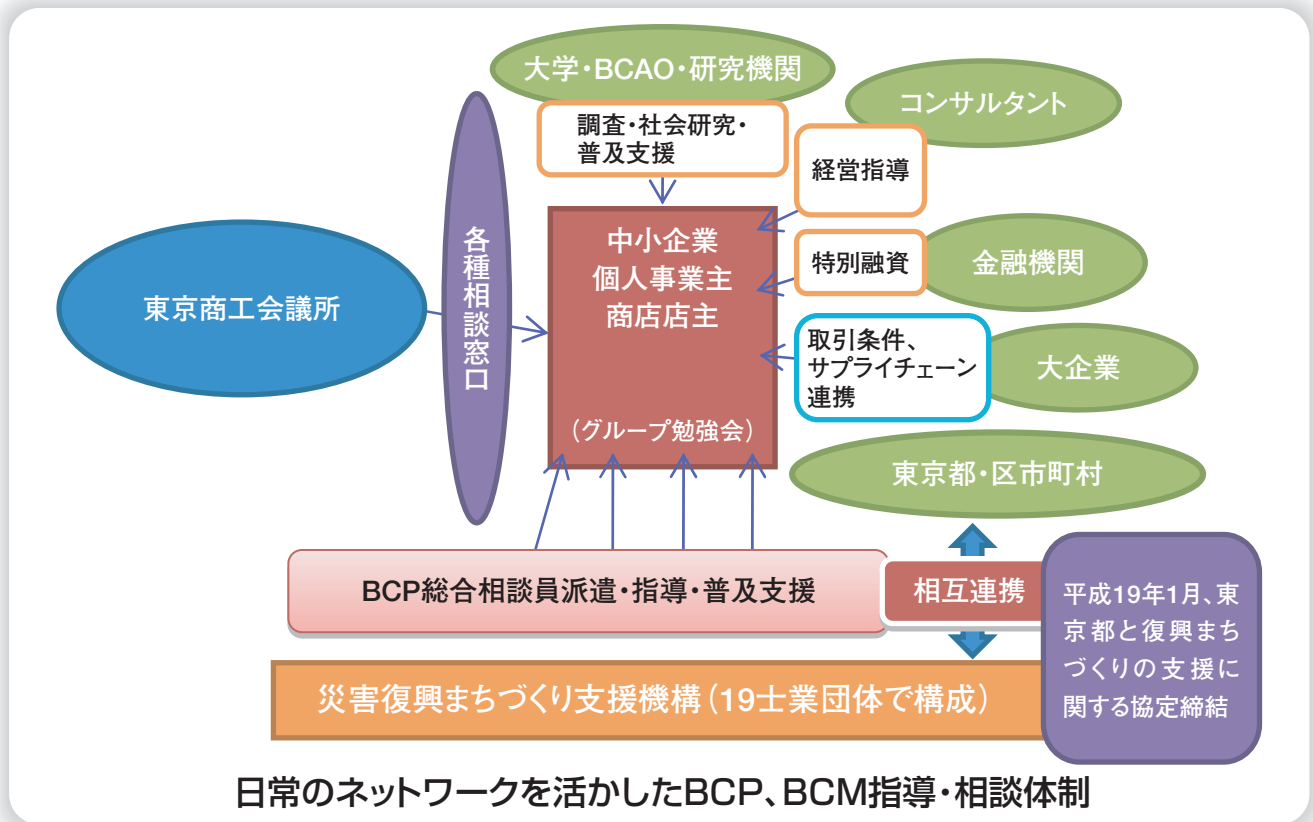
How 実践的な対策の提言、
アドバイスを専門家の連携で



社団法人 日本技術士会・防災支援委員会

災害に強い社会構造に向けて

日本技術士会防災支援委員会は、地域の危険度診断、防災出前講座開催、弁護士会等の専門家集団と連携した「防災復興まちづくり」支援活動と共に、ワーキンググループを結成して、「減災チェックリスト」「防災カード」「防災Q&A」「減災技術豆知識」の作成等を行っています。



防災Q&A ~防災支援委員会ホームページから~

防災 Q & A

目次入口：こちらから [クリックしてください](#)

公助

自助

共助

地震・津波編

はじめに

大きな地震がいつ・どこで起きても不思議でない時期にきています。被災時には、地域の人達とお互いに助け合う共助の生活が始まります。コミュニティの強い地域は災害にも強いと言われていますが、防災に関する知識を豊かにし、事前の準備をしていくことも大切です。

このQ&Aは一般の読者を対象に作成しましたが、防災知識の習得に利用されることを望みます。

掲載した内容は、基本的に著作権フリーとしていますが、良識の範囲内でご利用ください。なお、引用にあたっては、出典「技術士会防災支援委員会 WG 防災Q&A」を明記ください。

目次入口：こちらから [クリックしてください](#)

はじめに

大きな地震がいつ・どこで起きても不思議でない時期にきています。コミュニティの強い地域は災害にも強いと言われていますが、防災に関する知識を豊かにし、事前の準備をしていくことも大切です。このQ&Aを、防災知識の習得に利用されることをお薦めします。

防災Q&Aの内容

- ・地震に対する日頃の心構え
- ・地域防災力の向上
- ・地盤および地震災害
- ・地震による津波災害
- ・建物の耐震性向上
- ・企業防災力の向上
- ・情報の収集・提供
- ・被災した後の自治体の対応
- ・被災した場合の個人の対応
- ・戸建住宅・マンションの再建
- ・救助・救援
- ・地震と環境について
- ・災害に関する法律

災害ステージ毎に減災に必要な技術への総合的な取り組み

技術士は、被災の教訓を活かして、減災・防災に関する技術課題に総合的な取り組みを行います。

防災・減災対策の調査・研究

防災専門家の育成とネットワーク化

自治体、防災関係機関、NPOとの連携

地域防災力向上の教育・訓練の実施・支援

講演会、講習会、防災教室の開催・支援

減災・防災に関する情報発信

主な活動

調査・研究活動

- ・新潟県中越地震 現地調査及び報告 H16
- ・『減災と技術』—災害の教訓を活かす— H17
- ・『地震災害に備えて』—技術士の27の提言—H17
- ・台風23号近畿災害 現地調査報告会 H17
- ・福岡県西方沖地震現地調査 H17
- ・事業継続計画（BCP）の調査・研究 H19
- ・岩手・宮城内陸地震現地調査 H20
- ・首都直下地震、今後の展望 H21
- ・中国 四川地震現地調査 中国の大学と協定を結ぶ H21
- ・防災支援委員会BCP検討 H22

防災提言

- ・新潟県中越地震緊急提言 H16
- ・台風23号今後の防災・減災に向けた提言 H17
- ・岩手・宮城内陸地震緊急提言 H20

防災協定

- ・東京都：復興まちづくり支援に関する協定 H19
- ・墨田区災害復興支援協定 H20

講演会・講習会

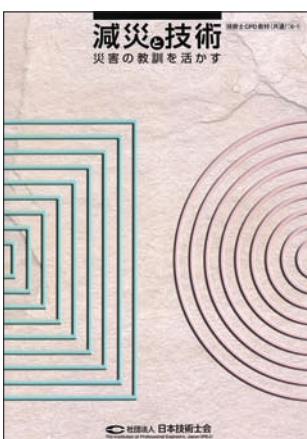
- ・神戸・横浜震災対策技術展及びシンポジウム 毎年開催
- ・仙台夢メッセ震災対策技術展及びシンポジウム 毎年開催
- ・専門家と共に考える 災害への備え 毎年開催
- ・リアルタイム地震学 H15セミナー
- ・活断層を知る H16セミナー
- ・津波からいのちを守る H17セミナー
- ・岩手・宮城内陸地震 H20セミナー
- ・中国 四川地震講演会 H21

防災教育・訓練

- ・墨田区まち歩き訓練技術支援・相談 H17
- ・仙台市防災出前講座、防災マップづくり H17
- ・相模大野市南公民館「まち歩きと防災マップづくりの進め方」H21

防災会議の開催

- ・全国防災連絡会議（札幌、東京、福井、松江、仙台、四日市で開催）



監修者のことば

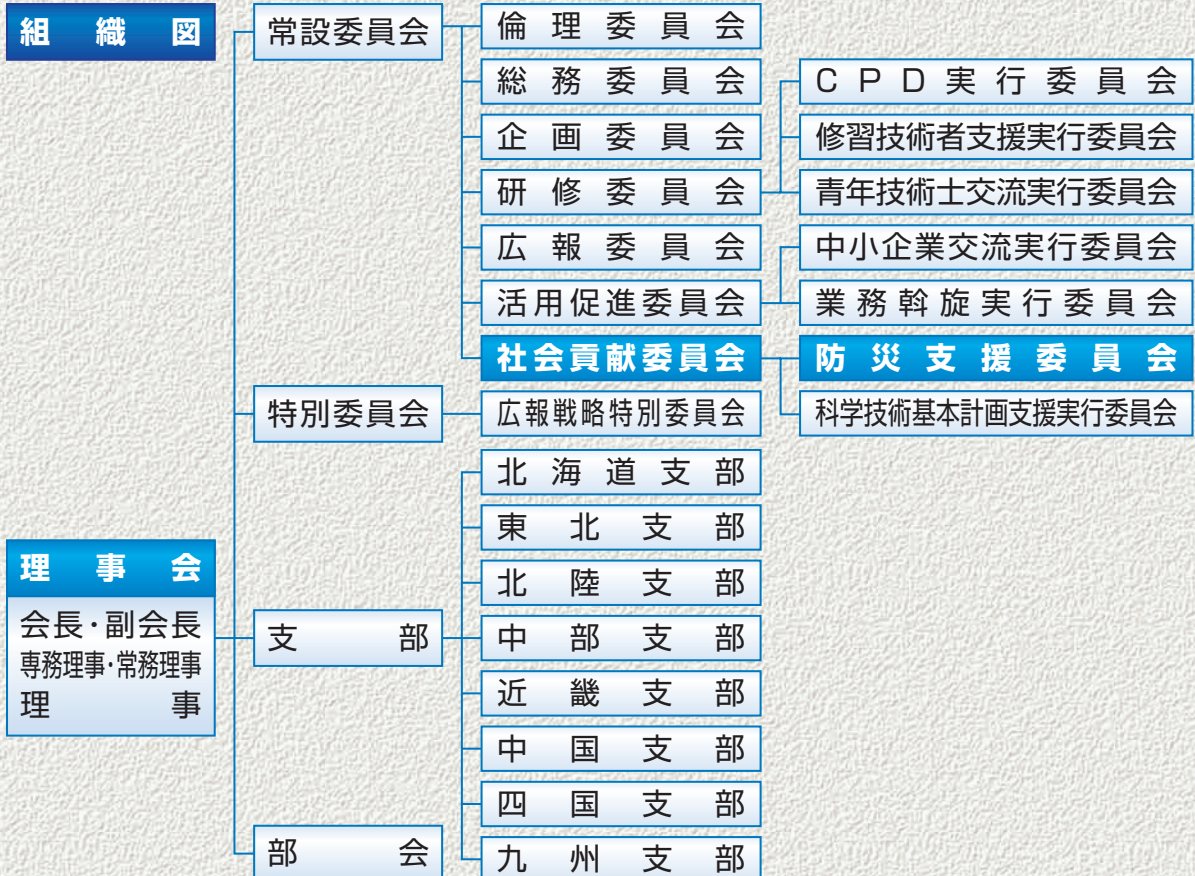
被害の軽減をはかる減災において、技術者には3つの課題がある。第1に地震外力に対する耐震性や安全性の向上、第2に救助、消火の防災に関わる技術の開発と発展、第3に、災害後の支援活動、復旧に専門性を活かすこと。減災への技術開発とともに減災に向け行動する技術者の連携が求められている。
 (独)消防研究所理事長 室崎益輝

災害ステージ別の技術課題に取り組みます

災害ステージ	技術課題	
対応準備	減災・防災戦略	1. 予知・リアルタイム情報 2. 減災・防災戦略 3. 危機管理体制 4. 災害教訓・教育・訓練 5. 災害リスクマネジメント、 6. 企業防災、事業継続・帰宅困難 7. 都市防災体制
	土木・建築耐震	1. 地盤災害対応 2. 建物耐震補強 3. 構造物耐震補強
被災時の緊急対応	防災情報	1. 防災情報 2. 被災情報・応急危険度 3. 安否情報
	救助・救援・避難	1. 救助・救援 2. 避難行動・避難生活
社会機能の回復・復興	復旧・復興対策	1. 復旧 2. 大量瓦礫処理・環境対策 3. 生活再建 4. 復興計画

社団法人日本技術士会とは

日本技術士会は、高度な専門技術力を軸に、社会に貢献することを目的とした公益法人です。近年、社会貢献に対する技術への期待が高まる中、我々技術士会は、20に亘る幅広い技術部門に、約1万8千人の会員を有しています。また、下記組織以外にも日韓技術士会議実行委員会、海外活動支援実行委員会等で、海外活動にも積極的に取り組んでいます。



専門技術部門																				
機	船	航	電	化	織	金	資	建	上	衛	農	林	水	経	情	応	生	環	原	総
械	舶	空	気	学	維	属	源	設	下	生	業	業	産	営	報	用	物	境	子	合
	・	・	電				工		水	工				工	工	理	工		力	技
	海	宇	子				学		道	学				学	学	学	学		・	術
	洋	宙																	放	監
																			射	理
																			線	理

■防災に対応する人材(専門家データベース)

日本技術士会は、平常時から大規模災害発生時の被害の軽減に技術支援するため、多分野の実務専門家によるサポート体制を整えています。これらの専門家をデータベース化し、支援要請に対応し、迅速な対応を目指しています。

部門	会員数	部門	会員数	部門	会員数
機械	1,195	資源工学	44	経営工学	437
船舶・海洋	25	建設	5,890	情報工学	618
航空・宇宙	57	上下水道	918	応用理学	701
電気電子	1,351	衛生工学	514	生物工学	98
化学	410	農業	741	環境	361
繊維	102	森林	202	原子力・放射線	169
金属	298	水産	142	総計	17,947名

／総合技術監理部門は上記に含まれます
(平成22年3月31日現在)

※事前のご相談、発災時の支援要請は、下記までお願いいたします。

社団法人 日本技術士会

住所 東京都港区虎ノ門4-1-20 田中山ビル8F
 連絡先(代表) TEL:03-3459-1331 FAX:03-3459-1338
 URL http://www.engineer.or.jp/

日本技術士会防災支援委員会

検索